



植物工場における病害虫防除

養液栽培における病害の診断と防除



養液栽培で病害を起こす病原の種類と感染様式は多様で巧妙である。発生予測や防除が難しいが、病原の種類を特定しそれぞれの発生生態に合わせて対応すれば対策は可能である。一方で養液栽培システムによって病原の種類や感染様式が異なることから、施設のタイプによってどのような病原が発生し易いかを予想できる場合も多い。発生し易い病害を予測し予防策を講じることが養液栽培で病害を起こす病害対策のカギとなる。養液栽培では薬害も発生するため、病害との区別することも重要である。このセミナーでは養液栽培での病害発生の具体例を取り上げて診断と防除の要点を概観した後に、受講生の質問に答える形で、個々の受講生が抱える問題事例の解決策をいっしょに考えたい。

東條 元昭

大阪府立大学 生命環境科学研究科 教授

参加費：2,000円

定員：80名

申込・振込締切：
12月6日（月）

※定員になり次第締め切り

害虫とその防除



植物工場では、一般に自然界と隔離されているイメージから、害虫は少ないと思われがちである。しかし実際には、閉鎖環境で天敵がいらないので、限られた種類が多発する傾向が強い。特に多いのは、不快害虫と呼ばれる食品工場や家屋で問題となる害虫である。これらの害虫は、直接作物を加害しないことが多いが、混入するとクレームの原因となる。また、自然光を用いた植物工場では（一部人工光でも）、一般的な農業害虫の発生が見られることがある。本講演では、これらの害虫の特徴とその防除法について述べる。

平井 規央

大阪府立大学 生命環境科学研究科 教授

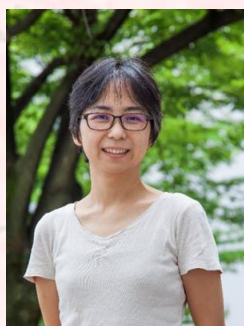
コーディネーター：北宅 善昭 大阪府立大学 植物工場研究センター長



植物工場における植物遺伝形質の最適化

植物工場の有効利用を目指した 作物の改変

植物工場では環境を制御できることから、作物・品種の特性を引き出す栽培環境の設定が活発に行われている。一方で、作物は育種を通じて様々な性質を持たせることが可能なため、植物工場の特性を生かすことのできる作物を育種することも、植物工場を発展させる上で重要である。本セミナーの前半では、作物の育種について概説するとともに、植物工場で求められる作物像について考察する。また、植物は漢方薬などに利用されるように私たちに有用な様々な成分を生産する能力を持っている。後半では、バイオテクノロジーを利用した植物工場の発展的な活用方法を、国内外の事例をもとに紹介する。



山口 夕

大阪府立大学
生命環境科学研究科 准教授

コーディネーター：北宅 善昭

大阪府立大学 植物工場研究センター長

2021年

12月21日(火)

13:30~16:20

Zoomにて開催

参加費：2,000円

定員：80名

申込・振込締切：

12月17日(金)

※定員になり次第締め切り

